

人類働態学会 19期 第7回理事会

日時：2007年6月30日（土）11:00～12:30

場所：八戸市総合福祉会館 3階 大会議室

出席者（敬称略）：岩田浩子、大箸純也、岡田 明、片岡洵子、小木和孝、小島龍平、
近藤功行（次回大会長）、酒井一博、久宗周二、平野和彦、堀野定雄、
真家和生、松田文子、松村秋芳、水野有希、森みどり、山岡俊樹

配布資料： 資料1 JHE関連 資料5 2006年度収支決算（案）
資料2 第36回東日本地方会（案） 資料6 会計監査結果
資料3 総会資料（案） 資料7 2007年度予算（案）
資料4 人類働態学会自己評価案 資料8 人類働態学会活動スケジュール

会員動向（215名 前回理事会より増減なし）

<入会>

●審議事項

1. 総会資料について（松田事務局長）

- ・第43回大会、6月中旬～7月頭（6月14,15は人間工学、24～27は産業衛生学会）
（後日、近藤大会長から6月21,22日であれば大学の施設が確保できるとの連絡があった。）
- ・働態研究は目標投稿数が80編であるため、期限を遅らせることを検討する。
- ・夏季研究会として6月29日に「農業改善ミニワークショップ」を開催した。

2. 自己評価（酒井副会長）

- ・はじめての取り組みであるため、今年度は理事・監査で評価したが、次回以降は一般会員にも評価してもらうか、理事会で検討する。

3. 収支決算、予算案（松田事務局長）

- ・2006年度収支決算と2007年度予算案を確認した。
- ・IEA分担金は会員数に応じたものと、会費の5%とするものの2通りあるが、会員数が明確であるため、会員数に応じた額を分担金として支出する。

4. JHE関連（松村理事）

- ・JHEの論文掲載（データベースの公開）について大学図書館から問い合わせがあった。
編集委員会で検討してから、理事会にかけることとした。
- ・著者がJHE側から権利をもらうことは異様であるため、権限はJHE側にあるとしたほうが良い。

●報告

1. 東日本地方会（酒井副会長、松田事務局長）

- ・武蔵野大学の橋本氏を大会長とし、11月24,25日に開催が決定した。24日は共生シンポのために会場を押さえてもらっており、25日は口頭発表になる。
- ・全国大会2日目の朝のワークショップ（新規共同研究：○×△式信号）の様子をみて、これを、共

生シンポ（第4回）として行うか検討する。

2. 第43回大会（近藤大会長）

- ・収容人数によっては、会場の変更ある。大学事務に施設使用の確認をとる。
- ・シンポは一般参加も見込んでいる。

●その他

1. 学会の新戦略として

- ・某電気メーカーのSEにエスノグラフィー（社会学研究法のうち、質的研究の一法に分類される）をやらせている。当学会では観察方法を行っているので、働態学会での優位性がある。当学会は企業の方の参加が少ないこともあり、SEを働態学会に取り込めるのではないか（山岡理事）。
- ・福知山線の電車事故は運転手の働態が問題であったため、もっと働態学会が主導として活動したほうがよい。戦略が弱い（堀野理事）。

次回の理事会日程：後日連絡

以上